

生えている ところ

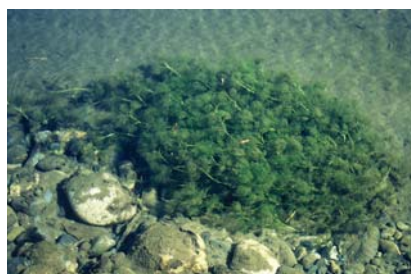
を見る

湿った草地に広がる
ノハナショウブ



アイヌ語名は（ ）内に の写真は毒草

水の中からも花を咲かせる

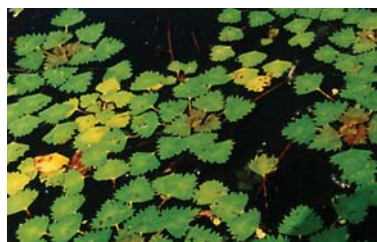


バイカモ。右は花



水の中にもいろいろな草が生きています。その中にも、水底に根を下ろし葉も水中にあるもの＝沈水植物、ヒシのように根は水底に下ろすが葉は水面に浮かすもの＝浮葉植物、ウキクサのように根も水中に漂っているもの＝浮遊植物、水の中から空中に葉を伸ばすもの＝抽水植物、などに分れます。

こうした水草はトンボのヤゴなどが羽化する時の登り口にもなります。



ヒシ（実＝ペカンベ）



オランダガラシ（外来種）別名クレソン



ヨシ。水中からも生える。枯れてはたまり、枯れ草と土の間の様な地面を作る

林の中に生える草

林の中に育つ草にとっては、木の葉が茂ると、太陽エネルギーを受ける量が減ってしまいます。まだ林が明るいうちにがんばるか、弱い光でもがんばるか、草それぞれにちがいがあります。

秋になるとあまり見られないトリカブト（スルク）も、春から初夏には、たくさん一斉に育っていることがあります。



ユキザサ（根＝ペペロ）



オオウバユリ（鱗茎＝トウレブ）



エゾトリカブト（スルク）猛毒草



オオバナノエンレイソウ（実＝エマウリ）

✂ 日当たりのいい湿ったところ ✂



ツボスミレ。ツボは「坪」で庭の意味

しつげん しつち
湿原や湿地周辺の草原などにも様々な植物が生育しています。



ノハナショウブ



エゾミソハギ

✂ 日当たりのいい乾いたところ ✂

かわ 乾いた草原、ていぼう 堤防の斜面などでよく見られる草です。
がいらいしゅ 多くの外来種もこうしたところに見られます。



エゾスカシユリ



アヤメ



スミレ



エゾタンポポ



オオイタドリ（クッタル）



セイヨウタンポポ（外来種）



オオアワダチソウ（外来種）
他の植物を枯らす、やがて自分も枯らすという

✂ 草原から林まで ✂



エゾノタチツボスミレ。春から初夏

夏の間じゅう堂々と生えているもの、他の植物が生える前に何とか芽を出し花を咲かせるもの、様々です。



アズマイチゲ。早春だけ



クサフジ。夏真っ盛りに

参考文献

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992
「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989
「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅰ～Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981, 1982
「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998
「新版 北海道の花(増補版)」鮫島惇一郎・辻達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993